

政策空間

Vol.14 2004. 6

政策情報・政策アイデアの広場

c o n t e n t s

- 【国際政治】米国イラク戦後処理の政策的失敗と今後の政策オプション……1
渡部恒雄（戦略国際問題研究所（CSIS）日本部上級研究員）
- 【景気分析】「大停滞」の解明と「分析なければ政策なし」……3
原田泰（大和総研 チーフエコノミスト）
- 【政治制度】知事の特別職秘書制度について……5
大西健介（衆議院議員馬淵澄夫 政策担当秘書）
- 【国内政治】自民党広報番組が及ぼす波紋……7
小野塚征志（富士総合研究所 経済・産業研究室 研究員）
- 【国際関係】「国際公共財」としての日中協力……9
増田雅之（防衛庁防衛研究所 教官）
- 【国際問題】EUがEAUになる日……11
高塚年明（参議院第一特別調査室 次席調査員）
- 【東アジア経済】東アジア地域経済統合の展望……12
石川幸一（国際貿易投資研究所（ITI）客員研究員、早稲田大学講師）
- 【地域経済】地域経済活性化に関する考察……14
真田幸光（愛知淑徳大学ビジネス学部 教授）
- 【IT政策】電子自治体と分散協調ワーク型テレワークの推進……17
堀 真由美（白鷗大学経営学部 教授）
- 【行政改革】行政改革は『自虐セクショナリズム』を脱却せよ！……19
渡瀬裕哉（NPO法人PPI 理事）
- 【行政改革】行政アウトソーシングの新しい流れ……20
小島卓弥（株ABM シニアコンサルタント）
- 【米国政治】アメリカ連邦議会の政策形成と政策実現……22
廣瀬淳子（国立国会図書館調査局行政法務課 主査）
- 【政策研究】政策過程論の知識科学的転回……24
大串正樹（北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 助手）
- 【科学技術】憲法と科学技術……26
鈴木邦子（東京大学先端科学技術研究センター 特任助教授）

「国際公共財」としての日中協力

増田雅之(防衛庁防衛研究所 教官)

無視できない「ネット愛国主義」

2004年3月24日早朝、中国人7名が日本の領土である尖閣諸島・魚釣島に上陸し、現行犯で逮捕された。小泉総理は「日本の法律に従って適切に対処する」意向を表明し、沖縄県警は入管難民法違反容疑で送検し、通常の刑事手続きを取る方針を固めた。しかしながら、小泉総理による「日中関係に悪影響を与えないように大局的に判断しなければいけない」との指示を受け、26日夜に全員を那覇発の中国東方航空で強制送還したのである。

魚釣島に上陸した7名の中には、2001年8月に靖国神社での落書き事件で有罪判決(懲役10月、執行猶予3年)を受けた馮錦華容疑者が含まれており、「日本の法律に従って適切に対処する」のであれば、同容疑者の執行猶予の取り消しが検討されなければならないはずであった。

しかしながら、小泉総理が示した問題解決の「基本方針」は「日中関係に悪影響を与えないように大局的に判断する」ことである。換言すれば、「法律に従った」「適切な対処」よりも、こうした「大局的」な「判断」が必要なほど、日中関係には多くの問題がなお存在しているのである。

今回の上陸事件の「適切な処理」を日中双方で難しくしているのが、両国での国民感情の冷却化である。事件後の4月に訪中した川口順子外務大臣と会見した国務院新聞弁公室の趙啓正主任が述べたように、「愛国主義」という名目の反日論調が「一旦発生すると、インターネットを通じて伝わることは止められない」状況が中国で広がっている。事実、今回の上陸事件によって、インターネット上では「反日」論が沸騰し、さらなる行動を求める意見が相次いだ。昨年も、北京・上海間の高速鉄道計画をめぐる、日本の新幹線受注に反対する約10万人のネット署名が中国政府に提出された。8月に黒龍江省チチハルで発生した旧日本軍遺棄化学兵器による死傷事故では、早期

補償を求める110万人のネット署名が集まったのである。

インターネット上で集中的に表出される反日「愛国主義」に中国政府は敏感にならざるを得ない。なぜなら、中国における「愛国主義」教育は、特に1990年代半ば以降、日中戦争に特化して政府・党みずから煽ってきたからだ。1994年秋からは、翌年の「抗日戦争勝利50周年」の「愛国主義」キャンペーンが展開された。それゆえ、反日「愛国主義」論調の高まりに対する弾圧は、政府・党の正統性の自己否定につながるばかりでなく、「反日」を名目にした反共産党・反政府の動きを誘発しかねない。

中国共産党機関紙『人民日報』社が運営・管理するインターネットサイト『人民網』(<http://www.peopledaily.com.cn/>)上に開設されている、日中関係に関する掲示板(BBS)「中日論壇」(<http://qglt.com.cn/bbs/chbrd?to=18>)には、「対日問題において、中国に欠落しているのは、国民と政府の直接対話であり、政府に問いたずチャンネルである」との主張が上陸事件後に書き込まれており、中国政府の対応への不満を示唆していたのである(4月1日)。

日中関係の「主流」は「協力」

こうした「反日」的な「愛国主義」の高まりを受けて、上陸事件の発生後、中国外交部は在北京日本大使館に対して「厳正な申し入れ」を行った(『人民日報』3月25日)。同日の記者会見でも外交部の孔泉スポークスマンは、「7名の中国公民の拘束」に抗議したうえで、「魚釣島および付属島嶼は古くから中国固有の領土である」ことを強調した。しかし、同時に「中日双方の魚釣島問題における論争について、中国政府は一貫して協議による解決を主張している」ことを確認したのである。

4月に訪中した川口外相に対しても、温家宝総

理は、「魚釣島および付属島嶼」にたいする中国の「主権」を重ねて表明しながらも、「双方が両国関係の大局から出発し、目下の問題を適切に処理すれば、中日関係はかならず困難を克服し、発展することができる」と述べた（『人民日報』4月4日）。唐家セン国務委員も川口外相との会見で、「中日関係の主流はよい。各分野の交流は大きな成果をおさめた」ことをまず強調した（『人民日報』4月5日）。たしかに唐国務委員は、日中関係の「少なからぬ問題」を指摘しない訳ではない。しかし、「こうした時期だからこそ、対話をして率直に意見を交換することがますます必要になる」と強調したのである。

「少なからぬ問題」が日中関係に存在しながらもなお、中国の指導者が両国関係の「主流はよい」と述べるのは、中国にとって対日関係の重要性が無視できない程に高まっているからである。2003年の日中貿易総額は前年比43.6%増の1,326億ドルとなった。これは、国交樹立時の130倍であり、日本は11年連続で中国の最大の貿易相手国となった。また、外国企業の中国への直接投資は、2003年はSARS（急性重症呼吸器症候群）の影響で、伸びが鈍化し、前年比1.4%増（実行ベース）に留まった一方で、日本企業による直接投資は、前年比20.5%増の50.5億ドルに達し、過去最高を記録したのである。

さらに、中国は外交政策の重点を明確なかたちで「東アジア外交」におき、FTA（自由貿易協定）など経済面での地域協力を積極的に推進するのみならず、北朝鮮の核開発問題についての「6カ国協議」のホスト国をつとめるなど、安全保障面での多国間協力についてもイニシアチブを發揮するようになった。また、2003年6月のARF（ASEAN地域フォーラム）閣僚会議において、中国外交部の李肇星部長は国防・軍関係者が参加する「安全保障政策会議」の創設を提案したのである。こうした、包括的な「東アジア外交」を実行するとき、中国にとって日中協力は不可欠である。中国社会科学院アジア太平洋研究所の張蘊嶺所長は「東アジア協力のカギは中日協力である」と指摘する。しかし、「日中間には真の信頼がい

まだ構築されておらず」、「東アジア協力の困難と障害」になってしまっている（『中国社会科学院アジア太平洋研究所ホームページ』）。外交部スポークスマンも、今回の魚釣島上陸事件後に「中日協力」を「絶えず前に向けて発展」させ、「アジア地域の平和と安定に貢献する」ことに「期待」を表明しているのである（『中国外交部ホームページ』4月1日）。

「包括的」な日中協力は「国際公共財」

中国における反日感情の高まりを考慮すると、東アジアの地域協力をめざした「包括的」な「日中協力」の実現はなお難しいかも知れない。2004年3月に北京を訪れた筆者にたいして、中国政府関係者は「政治的な信頼」の構築が、日中間の「包括的」な協力実現の「前提条件」と指摘した。確かに、日中間には歴史問題や領土問題など「少なからぬ問題」が存在する。しかしながら、日中協力が張蘊嶺所長が指摘するように「東アジア協力のカギ」であるならば、日中協力の影響は地域全体に及ぶ。東アジアでは今、経済のみならず安全保障を含めた「包括的」な地域協力の進展が議事日程に上っているのであり、「包括的」な日中協力は東アジアにおける地域協力につながる「国際公共財」なのである。

今夏のARF閣僚会議では、昨年6月に中国が提案した「安全保障政策会議」が、「正式提案」される見通しである。「正式提案」を受けて、早ければ今秋には北京において第1回ARF「安全保障政策会議」が開催されるであろう。日本は中国とともに「安全保障政策会議」の「共同提案国」となり、安全保障を含めた「包括的」な日中協力の意志を示すことを早急に検討すべきである。

* 1976年生。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程修了。上海大学外国語学部客員研究員等を経て現職。慶應義塾大学SFC研究所所員（訪問）。専門は、現代中国論、東アジア論、日本外交。